

「TSH 刺激性レセプター抗体(TSAb)」 検査内容変更のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、この度、下記項目につきまして検査委託先より検査内容変更の連絡がございましたので、
取り急ぎご案内する次第です。

誠に勝手ではございますが、事情をご賢察の上、何卒ご了承の程お願い申し上げます。

敬具

記

■対象項目/変更内容

頁	項目 コード	検査項目名	変更内容	新	旧
81	2357	TSH 刺激性レセプター抗体 (TSAb)	検査項目名	甲状腺刺激抗体 (TSAb)	TSH 刺激性レセプター抗体 (TSAb)
			検体量	血清 0.3 mL	血清 0.8 mL
			基準値(単位)	110 未満 (%)	120 以下 (%)
			報告範囲	92 未満、 92~99900000	0~99999999
			桁数	有効 3、整数 8、小数 0	有効 8、整数 8、小数 0
			所要日数	3~6 日	4~7 日
			備考	溶血でのご依頼は避 けてください。(溶血検 体では、測定値が低値 となる可能性があります。)	(なし)

※ その他の検査要項に変更はございません。詳細および新旧二法の相関は裏面をご確認ください。

■変更期日

●2023 年 3 月 31 日(金)受付日分より

甲状腺刺激抗体(TSAb)

甲状腺機能亢進症を示すバセドウ病の診断、破壊性甲状腺機能亢進症(無痛性甲状腺炎、亜急性甲状腺炎)との鑑別診断に有用です。

甲状腺機能亢進症におけるバセドウ病は TSH 受容体抗体(TRAb)によって発症します。TSH 受容体抗体には刺激型と阻害型の 2 種類があり、このうち刺激型は TSH 受容体に対してアゴニストとして作用し、甲状腺細胞膜中の adenylate cyclase 活性を刺激し、甲状腺内のサイクリック AMP(cAMP)産生を増加させるバセドウ病の原因物質と考えられます。甲状腺機能亢進症を示すバセドウ病の診断、破壊性甲状腺機能亢進症(無痛性甲状腺炎、亜急性甲状腺炎)との鑑別診断に有用です。

▼疾患との関連

バセドウ病

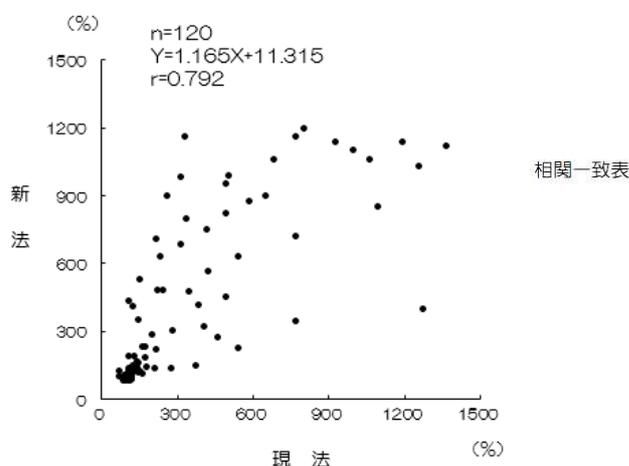
▼関連する主な検査項目

TSHレセプター抗体、
TSAb(TSHレセプター抗体[阻害型])

■検査要項

項目コード	2357
検査項目名	甲状腺刺激抗体(TSAb)
JLAC10	5G300-0000-023-905
検体量 / 容器	血液 1 mL ↓ <input type="checkbox"/> 遠心 血清 0.3 mL [容器番号:01]
保存方法(安定性)	冷蔵 (21 日)
検査方法	Bioassay
基準値(単位)	110 未満 (%)
報告範囲	92 未満、92~99900000
桁数	有効 3、整数 8、小数 0
検査実施料 / 判断料	340 点(「D014」自己抗体検査「38」) / 144 点(免疫学的検査判断料)
所要日数	3~6 日
備考	溶血でのご依頼は避けてください。 (溶血検体では、測定値が低値となる可能性があります。)
検査委託先	エスアールエル (→5)

■新旧二法の相関



		現法	
		陰性	陽性
新法	陰性	50	0
	陽性	8	62

一致率: 93.3% (n=120)

■参考文献

- 田上 哲也, 他: 糖尿病・内分泌代謝科 53(5):479~486, 2021. (測定法参考文献)
上條 桂一, 他: 医学と薬学 79(9):1199~1207, 2022. (臨床意義参考文献)